



2015年4月1日

公益財団法人日立財団に生まれかわりました。

日立の国内5財団(小平記念日立教育振興財団、日立環境財団、倉田記念日立科学技術財団、日立国際奨学財団、日立みらい財団)が合併し、平成27年4月1日より「公益財団法人日立財団」としてスタートしました。

ご挨拶



日立の5つの財団が合併し、4月1日より公益財団法人日立財団として活動することになりましたのでご報告申し上げます。

日立製作所は今年創業105年を迎えます。創業以来、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念に基づき、従業員を通じて技術やノウハウを地域社会に伝え、次世代への教育や地域が抱える課題の解決に貢献する活動を行ってまいりました。その精神から財団が生まれ、最初に設立した財団から48年が経過しました。これまで、青少年の健全育成、環境、幼児教育、科学技術、国際奨学と創設時の理念をつないでまいりましたが、各財団で取り組んできた事業をより飛躍させるため、社会のニーズを踏まえ有機的連携を図り、さらなる貢献をめざしていきたいと願っています。当財団は今度とも豊かで輝かしい未来を実現するための活動を推進してまいります。

皆さまにおかれましては、これまでと変わらぬご支援ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

公益財団法人日立財団

理事長 田中 幸二

財団名	設立当時の名称と理念		設立年月日	創設者	理事長
公益財団法人 小平記念日立教育振興財団	小平記念会	幼児期からの躰教育	1971年7月9日 (昭和46年)	駒井 健一郎 (日立製作所第3代社長)	田中 幸二
公益財団法人 日立環境財団	公害調査センター	公害問題の調査研究	1972年1月31日 (昭和47年)	駒井 健一郎 (日立製作所第3代社長)	小豆畑 茂
公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団	国産技術振興会	若手研究者の育成	1967年10月1日 (昭和42年)	倉田 主税 (日立製作所第2代社長)	小豆畑 茂
公益財団法人 日立国際奨学財団	日立国際奨学財団	アジアの研究水準向上	1984年12月2日 (昭和59年)	駒井 健一郎 (日立製作所第3代社長)	谷垣 勝秀
公益財団法人 日立みらい財団	青少年更生福祉センター	非行からの立直りと防止	1967年3月29日 (昭和42年)	竹内 亀次郎 (日立製作所元副社長)	葛岡 利明
	矯正福祉会	受刑者の社会復帰	1971年9月16日 (昭和46年)	竹内 亀次郎 (日立製作所元副社長)	

●2014年度「倉田奨励金」の贈呈式を開催しました

3月2日(月)、経団連会館にて「第47回 倉田奨励金」贈呈式・記念パーティーを開催しました。今年度は全国から373件の応募があり、厳正な選考の結果、難関を突破された53名の研究者に対して、総額6,000万円の研究助成金を贈呈しました。

贈呈式には、文部科学省 安藤慶明審議官、東京工業大学 三島良直学長をはじめとする約110名の皆さまにご列席いただき、小豆畑理事長より受領者一人ひとりへ贈呈書を手渡しました。また、三島学長からは「トップを見据え、一流の方や異分野の方との交わりを大切にしてください。必ず学ぶものがあります。」と若い研究者の皆さまへ応援の言葉をいただきました。

閉会後の記念パーティーでは岡山大学自然科学研究科長の妹尾昌治先生より乾杯のご発声をいただき、列席者の皆さまは、和やかな雰囲気の中、交流を深めていました。

本年度採択された研究テーマの一覧と、贈呈式の様子は財団ウェブサイトをご覧ください。



▲小豆畑理事長(当時)より倉田奨励金の贈呈



▲受領者と選考委員の歓談の様子

▶▶ <http://www.hitachi-zaidan.org/kurata/index.html>

●2014年度「日立スカラーシップ」卒業式

日立スカラーシップは東南アジアの大学で自然科学分野を専門とする教員が日本の大学院に留学し、博士号を取得後、母校に戻り後進の指導に当たるとともに、日本の大学と研究分野での継続的な関係づくりを支援するプログラムです。

2015年3月11日(水)、東京ガーデンパレス(東京都文京区)において2014年度日立スカラーシップ卒業式を開催しました。本年の卒業生はインドネシアが3名、フィリピンが1名の計4名です。卒業式には在学中の奨学生16名も出席しました。来賓としてインドネシア大使館よりマヘンドラ大使、フィリピン大使館よりエスカローナ公使、ならびに外務省新国際文化交流審議官、文科省高等教育局渡辺学生・留学生課長にご臨席賜り、盛会となりました(出席者総数110名)。

マヘンドラ大使からは流暢な日本語で卒業生への激励のお言葉と日立の奨学プログラムへの賛辞を頂戴し、新美審議官からはユーモアに富んだお祝辞をいただきました。当日は、日立製作所幹部も出席し、励ましの声を

かけていただき、卒業生、奨学生にとってはたいへん意義深い卒業式となりました。

翌3月12日(木)は、全員がスタディー・ツアーとして、完成したばかりの中央研究所鳩山サイトにある超高電圧電子顕微鏡、ならびに日立金属熊谷工場の磁性体材料製造現場を見学しました。日頃企業との接点が少ない奨学生にとって、このような見学は貴重な機会となっています。



▲卒業式を前に奨学生全員が財団理事長とともに



▲開会のご挨拶をする谷垣理事長(当時)



▲マヘンドラ大使(インドネシア)と談笑する奨学生

編集後記

2005年6月に創刊した財団ニューズレターが今年で10周年を迎えることができました。一人でも多くの皆さまに日立の財団を知っていただくため、お手元にお届けしてまいりました。デザインと印刷は日立グループの(株)日立ドキュメントソリューションズに、発送業務は(株)日立ハイテクサポートにお願いし、2社に支えられ10年を迎えることができました。これからは、日立財団として皆さまにより良い情報をお届けできるよう努めてまいります。

公益財団法人 日立財団

hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6675 FAX 03-5221-6680

所在地 〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号
丸の内センタービル12階

財団ホームページ ▶ www.hitachi-zaidan.org